

F U E K I

不易

vol.52

回帰から創造へ

〔特集1〕瀬戸内国際芸術祭2013秋会期限定開催！——本島・高見島・粟島

〔特集2〕学校×家庭×地域——3つの連携で学力向上へ





I



II



III

島にちなんだ作品群が 潮風とともに迎えてくれる本島

児島観光港(倉敷市)から約30分のところに位置する本島は、塩飽大工、咸臨丸、鰻絵など島の歴史や瀬戸内海を訪れたシーボルトにちなんだ作品群が登場します。「齊藤正×続・塩飽大工衆」は、法然上人が本島に島流しになったとき、島の人々が薬湯でおもてなしをしたと言われていた話を元に「善根湯×版築プロジェクト」を展開します。

齊藤正氏／善根湯×版築プロジェクト 代表

「かつて塩飽諸島は優秀な船大工に恵まれていた。彼らは江戸中期以降宮大工や家大工となった。塩飽大工の作品は、吉備津神社本殿、拜殿のほか、備中国分寺五重塔、善通寺五重塔などがそうである。倉敷にも塩飽大工の建築が残っている。しかし、忘れ去られようとしている。その復活を願い、続・塩飽大工衆として活動を開始する。」

- I. 瀬戸大橋をのぞめる泊海水浴場
- II. 本島に滞在しながら作品をつくるサンタルの人たち
- III. 版築プロジェクト代表齊藤氏の作業風景

アーティスト・イン・レジデンスで 活気づく粟島

粟島では、探査船、製塩など海に関わる作品が大集合します。かつて使われていた漁業網、海洋道具など海にゆかりのある物を用いた作品「スサノヲ」は、倉敷市在住のアーティスト・滝沢達史氏によるものです。また、2009年から始まった粟島アーティスト・イン・レジデンス事業に、昨秋と今春に参加したアーティスト5人が出品しています。

滝沢達史氏

[越後妻有トリエンナーレ・岡山芸術回廊などに参加]
「今回の作品は明治時代に建てられた古民家を改装し、その空間全体を見ていただく作品となっています。家に眠っていた明治～昭和初期の新聞や古い海洋道具が配された空間で、戦前から近代まで我々が辿ってきた足跡を感じていただければと思います。」

- I. 島のあちこちで出会うブイアート
- II. 作品「スサノヲ」
- III. 休校した中学校校舎で作品を制作中の濱野貴子氏



I



II



III



秋会期限定開催！本島・高見島・粟島

春会期、夏会期と多くの来場者でにぎわった瀬戸内国際芸術祭2013。「アートと島をめぐる瀬戸内海の四季」も最後の秋会期となりました。秋会期では、本島・高見島・粟島が新たな会場として登場します。犬島では前回の芸術祭に続き維新派が公演します。

瀬戸内国際芸術祭シリーズ

vol.3



I



II

12の多彩な島にまつわるプロジェクトを展開する高見島

「高見島プロジェクト」として京都精華大学の教員、卒業生、学生たちが、出品作家や地域と協働しながら作品を展開します。海、漁、旗、除虫菊など島にまつわる作品が空家や荒地、廃校、廃村を舞台に登場します。高台にある古民家の庭や離れを改修した「海のテラス」は、瀬戸内海を一望できるオープンデッキで地元の食材を使ったイタリア料理を味わうことができます。



III

- I. 船着き場近くに放置された船舶用の古い鎖
- II. 野村正人氏の作品「海のテラス」設置風景
- III. 作品「高見島へのオマージュ」(小西通博+楠本衣里佳+河野有希+藤野裕美子)のアーティストとボランティアスタッフ

再び犬島に登場する維新派—新作『MAREBITO』 構成／松本雄吉

大阪を拠点に国際的な創作活動を展開する維新派が、犬島で新作野外劇を発表するのは2002年『カンカラ』、2010年『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』、2011年『風景画』に続いて4回目。今回は、犬島の南側に位置し、小豆島や豊島、屋島などが一望できる絶景の海水浴場が舞台となります。穏やかな海原に近く遠く濃淡を彩る多島美の広がる瀬戸内海ならではのパノラマが借景です。美しい瀬戸内海へのオマージュともいえる、犬島の海辺に誕生する天啓のようなドラマにご期待ください。

松本雄吉氏／維新派主宰

「瀬戸内海を借景に海の上に舞台をつくり、その舞台の中に海をつくる。ストーリー的には、東南アジアの海から島づたいに日本にたどり着く「海の道」を表現した『台湾の、灰色の・・・』につながっている。時間や天気の変り変わり、潮風、波などを体感しながら楽しんでほしい。」

作品名／ MAREBITO

構成／松本雄吉 音楽／内橋和久

日時／2013年10月5日(土)～10月14日(月・祝)

※休演日10月8日(火)

詳細は公式ウェブサイト参照

<http://setouchi-artfest.jp/>



I



II

- I. 維新派『MAREBITO』
(Photo:Yoshikazu Inoue)
- II. 記者会見で語る
松本雄吉氏

学校

家庭

地域

—3つの連携で学力向上へ—

福武教育文化振興財団では「学力向上モデル地区助成」(継続3年間)を新設しました。これは、学校と家庭と地域とが一体になり、それぞれが持っている力を発揮し連携することで、総合的に子どもを育て「学力向上」を図ろうとする取り組みへの助成です。

すでに4市町において1年次の取り組みを展開されていますので、その一端を紹介します。

学校

学習の基盤づくりや教師の指導力向上

での取り組み

総社市では確かな学力を培うアプローチの一つとして、幼・小・中が連携し「だれもが行きたくなる学校づくり」をテーマに市内全ての校園で次の4つのプログラムを実践しています。

- ① 協同学習(「めあて」をはっきりさせた授業の中で、友だちと協同して自分の考えを書いたり説明したりする活動を意図的、計画的に取り入れ、学習意欲を高めるとともに思考力・判断力・表現力を育成する)
- ② ピア・サポート(異学年交流等の多様なサポート活動を行い、リーダーシップ、思いやりの心、感謝する心、支え合う力等を育む)
- ③ SEL(自分自身の感情をコントロールし、ストレスに対処したり、対人関係に関する価値観やスキルを身につけさせたりする)
- ④ 品格教育(人と関わる上でのルールやよい習慣を学び、仲間と磨き合うことで、規範意識を向上させる)プログラムを推進し学力向上を図るためには、教師の資質・指導力向上は不可欠です。そのために教員には様々な研修を位置づけ、教師力向上に努めています。

* SEL=Social and Emotional Learning



総社市：ピアサポート (小学生に資料の読み取りを教える中学生)



総社市：教職員研修 (カウンセリングの技法を用いてペアでロールプレイ)

家庭

での取り組み

家庭学習の習慣化や基本的な生活習慣の定着

美咲町では「みさきっ子テレビ教室実行委員会」を組織し町民向けにCATV 30分番組を制作し、毎日夕方に放映しています。目的は次の2つです。

- ① 家庭学習の習慣形成を図り、学習意欲を高めるとともに学校での教育効果を向上させること
 - ② 家庭や地域の人々に学校教育への理解と協力を図ること
- 番組は家庭学習の参考になることや教科学習のポイントとなるような内

地域

での取り組み

ボランティアによる放課後や休日の学習支援



備前市：地域公民館での土曜日学習教室



備前市：「備前まなび塾」の問題集

備前市では「備前まなび塾」を立ち上げました。市内10か所の公民館を会場として小学3年生から中学3年生の児童生徒を対象に、土曜日(月2日程度)や夏・冬休みに学習教室を開催しています。募集で集まった学習支援ボランティアの方には

- ① 自ら学ぼうとする気持ちを大切にする
- ② 子ども同士の学び合いを大切にする
- ③ がんばる姿勢をしっかりほめる

という方針で臨むことをお願いしています。子どもたちは宿題や問題集を持参して学習に取り組んでいますが、教えてくれる先生や友だちに感謝の気持ちを言葉で表すことも伝え、がんばる気持ちとともに感謝の気持ちを持つことも教えています。教育委員会では、新たに中学生用に国・数・英の3教科学年別問題集を作成しました。

井原市では、全ての小学校区で週1~4回、放課後学習サポートを行っています。募集により集まった退職教員やボランティアの方たちによる学校の放課後時間を活用した学習サポートです。内容はおもに国語・算数のプリント学習で、子どもたちの学習能力に合わせた指導を行っています。

これらの学習は、学校や担任の指導とは違った側面を持つとともに、年齢や学校を超えた仲間での学習ができるので、単に学力だけでなく、自主性やリーダーシップ、フォロアシップなど、社会性や道徳性などの芽生えや育ちも十分期待できる場となっています。



美咲町：CATVの学習サポート番組

内容を小中学校の先生が先生と子ども役で出演し、実際の教室の授業風景として制作しています。また、子どもたちの学校での生活ぶりを「学校の活動紹介」として地域へ発信するコーナーや英会話ワンポイント講座などもあります。子どもを持つ保護者ばかりでなく、地域住民も視聴を楽しみにしています。



井原市：保護者ボランティアによる放課後学習サポート

井原市では「児童生徒の学習意欲の向上は日常生活態度の向上から」との思いで「いばらっ子生活リズム向上プロジェクト」を立ち上げ、保・幼・小・中・高、全ての幼児・児童・生徒への生活アンケートを実施しました。今後はアンケート結果を分析し、課題解決、改善へ向けた全市的な取り組みを行います。

受

岡山県の文化の向上に貢献した方々の功績を顕彰し、福武文化賞・同奨励賞をお贈りしています。第14回となる今年度の受賞者は次のとおりです。

福武文化賞



児童文学作家・小説家

あさのあつこ

「バッテリー」をはじめ夢を与える作品や青少年の心の揺れを掘り下げた数々の作品を世に送り出している児童文学作家・小説家。美作国建国1300年記念事業など地域振興にも積極的に関わる氏の全国に発信する影響力は大きく、岡山県の文化振興に寄与した功績は誠に顕著で、各方面から賞讃されています。



染織家

佐藤常子

綿を主題とし、吉備野にある自然素材で染めた糸で紡ぐ染織家。短歌にも造詣が深く、作品に添えられた短歌は、作品に織り込まれより豊かな表現力となっています。岡山県の染織界のパイオニアとして、40数年にわたりひとつの道をひたすら追求し、今もなお精力的に制作に取り組む姿勢は高い評価を得ています。

福武文化奨励賞



写真家

青地大輔

アートによる地域振興に貢献している写真家。平成16年から、ライフワークとして訪れていた犬島で、企画・主宰している地域とのかかわりを大切に「犬島時間」の取り組みは、10回目を迎え、全国から注目されているアートイベントとなり、その手腕が高く評価されています。



家具職人

大島正幸

西粟倉村で家具にはあまり適さないヒノキに着目し、ヒノキで家具を作るという新しい手法に挑戦している家具職人。50年100年先の暮らしとモノが生まれる場所を考え、森林資源の有効利用や人と森との関わりを見つめ直し、定住し創造する姿勢が高く評価されました。



オペラ歌手

木村善明

丸みを帯びた太くて重い声は、声量と艶があり、表現力も豊かでヨーロッパ各地で高い評価を受けているオペラ歌手。地元岡山では、音楽のすそ野を広げようと寺院や美術館ホール、ミニオペラなどの企画に積極的に取り組み、留学の成果を活かした活躍が今後更に期待されています。



ヴァイオリニスト

守屋剛志

ソロ活動、室内楽、オーケストラとの共演など充実した活動を展開する一方で、自らが主宰する弦楽四重奏団「ベルリン・トゥキョウ」を結成、ヨーロッパでは高い評価を得ているヴァイオリニスト。地元倉敷での定期コンサートなど岡山での演奏活動にも積極的に取り組み、今後更なる活躍が期待されています。

あさの氏、佐藤氏に文化賞
青地氏、大島氏ら四個人に奨励賞

賞

2年目は旅をテーマに・・・「学校でひらく舞台芸術教室」

舞台芸術のアーティストを学校に派遣し、正規の授業の中で3カ月にわたり学びと創造とコミュニケーションの力を育む「学校でひらく舞台芸術教室」を平成23年から実施しています。今年度は、岡山市立竹枝小学校に舞踊家・北村茂美さん、岡山市立朝日小学校に須原由光さん率いるズンチャチャが講師で入り、7月12日犬島で合同発表交流会を行いました。昨年引き続き、講師をしていただいた北村茂美さんに寄稿していただきました。

人間の身体はみんな天才や! 北村茂美

竹枝小学校のみんなにとって、私は新幹線で登校してくる「しげやん」なのです。2週間に一度、3カ月間草津から通い、ダンスを踊り、作り、人に観てもらう場(=サプライズを仕掛ける喜びを堪能する場)を作る人です。

1年目、私たちは竹枝の四季とその日常を凝縮したダンスを作りました。2年目は、旅をテーマにダンスを作り、実際に犬島へ旅をしたのです。私たちにとって肝心なのは、身体の実。上手い下手ではなく、その人から絞り出された動きは本当にかっこいいし、たとえ上手にできても、言われた通りにやっておけばいいや、という身体はくすんでしまいます。

こうしたダンスの美学を追求できたのは、子どもたちも先生方も、実に柔軟で寛容だったからです。一緒に給食を食べ、踊り、笑い、語り合う中で、ものすごいエネルギーを交感し合い、繋がり合い、幸福な関係を築くことができました。

去年は、上級生が下級生のお世話をしている姿をよく見かけたのですが、今年は、相手が自分であることを待ってあげている感じがしました。お互いを認め合うことが深まったのかな?だから打てば響くような速度で創作が進みました。

犬島のキラキラ光る海を背に、竹枝の子どもたちは光り輝き、鳥のように龍のように躍動しました。自分で一步を踏み出し、最後まで自分でやりきる勇姿に、私は確信し、感謝感激するのです。「やっぱり身体は天才や!!」と。



北村茂美(きたむらしげみ) / 舞踊家・振付家

大阪府生まれ。国内外で公演活動が続けるとともに、全国の小中学校や公共ホール等で体験型講座に取り組む。第1回TORII AWARDにおいてフランス賞とオーディエンス賞、平成15年度大阪舞台芸術新人賞、平成22年度滋賀県文化奨励賞を受賞。滋賀県草津市在住。

この夏、私が初めて撮影のため本島を訪れた際最初に目にしたのは見たこともない大きなカエルをこめられた見たこともない大きなヘビが捕食するその瞬間、車によって双方轢かれ死んでいるという凄まじい光景でした。

自然豊かなこの島は過疎化のためか多くの空き家が朽ちるに任せそのまま放置されています。かつての庭には雑草が塀の高さを優に超えるほどに繁茂し、家屋の至る所から侵入した彼らはまるで自らの生命を謳歌するように主無き住処を占拠しています。

「自然を大切にしよう」という都合の良い言葉の裏に隠された欺瞞とは対照的に自然と絶えず闘い続けることが必要とされるこの島の環境は、人間が自然を駆逐することによって生活を構築してきたのだというむき出しの「本音」が露わにされていて何故か眩しく見えました。

また、本島の墓地では土葬と火葬の二種類の墓が存在します。それはかつてこの島を含む塩飽諸島では土葬が一般的だったからです。亡骸を埋めた場所に石をポツンと置いただけの簡素な墓と大きな御影石を高く積み上げた瀟洒な現代の墓、果たしてどちらがこの島の環境に則した形なのか考えさせられます。

かつて人は自然を制しながら同時に従うというアンビヴァレントなバランス感覚を身につけていました。しかし、それは失われてしまいました。どうやら私たちは傲慢過ぎたようです。

帰りのフェリーから見た島を覆いつくすかのような緑の瑞々しさが脳裏に焼き付いています。それはカエルやヘビ、人間までの生命を丸ごと飲み込んできた命の色でした。

すぎうらけいた／写真家 1980年岡山県生まれ。津山市在住。2008年「GEISAI #11」銅賞、「I氏賞」大賞／2009年「Daydream」(MaxProtech Gallery / ニューヨーク)／2010年福武文化奨励賞、「ink jet」(CASHI / 東京)、「杉浦慶太展—農村の意匠—」(奈義町現代美術館 / 岡山)

Editor's Comments

▼瀬戸内国際芸術祭2013の夏会期初日、初めて訪れた伊吹島は、イリコの加工場が海岸沿いに建ち並ぶ独特の風景をなし、カタクチイワシ漁の最盛期で活気づく真浦港は、地元の小中学生による歌の歓迎と海風になびく大漁旗と来島者で賑わっていました。島の中に点在する現代アートの作品を追いかけながら、島の人たちとお話したり、地元料理のイリコ飯を食べたり、加工場を見学したり、出部屋跡や神社などの散策をしました。いろいろな島を訪れる度、それぞれ違う文化や歴史、生活スタイルや風習があることを改めて実感します。

▼「『教育県岡山』の誇り」と題して、教育県と呼ばれるようになった背景や現在の岡山県の教育課題について、元当財団常任理事の森崎岩之助先生が講演されました。改善策として、学校と家庭、地域との連携が必要であること、自然を畏敬するような体験が子どもの成長にとって大事であること、そして学力向上に近道はないと持論を語られました。

▼12月1日から平成26年度の教育研究助成・文化活動助成の募集が始まります。締め切りは1月31日(当日消印有効)。詳細につきましては、財団HP又は募集チラシ(図書館・公民館等に配布)をご覧ください。申請書の記載方法、財団の目的に沿った活動かどうかなどご不明点がある場合は、気軽に財団へお問い合わせください。皆さまのご応募をお待ちしています。(財団・W)

季刊

不易

F U E K I vol.52 2013.10.5

編集・発行:

公益財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
株式会社ベネッセコーポレーション本社3F
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
URL <http://www.fukutake.or.jp/>
E-mail eczaidan@fukutake.or.jp

制作:
株式会社 吉備人
デザイン:
田中雄一郎(QUA DESIGN style)
印刷:
広和印刷株式会社